

道路照明のLED化でCO₂排出量を削減

近畿地方整備局が管理する道路では、電気使用量の約7割を道路照明が占めています。このため、従来の高圧ナトリウム灯などよりも消費電力が大幅に削減できるLED灯に転換することにより、CO₂排出量の削減を進めています。また、センサー照明などの新技術の導入による更なる削減も進めています。

LED化の現状 近畿地方整備局管内

道路の電気使用量と照明灯の種類現状 (R5.3現在)



R 5 年度は約8500灯をLED化予定



消費電力：125W

ランプ寿命：60,000時間



消費電力：285W

ランプ寿命：24,000時間

約4.5割削減

約2.5倍長持ち



CO₂排出量削減効果

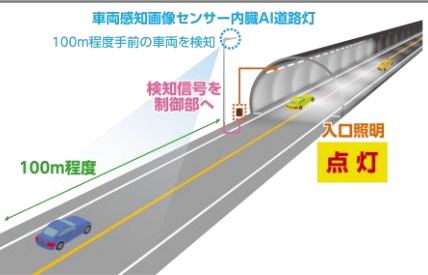
年間吸収量 杉林516ha分に相当
(甲子園球場134個分)



※道路照明のCO₂排出削減量は、現在LED化が完了している道路照明約3.4万灯について、これが高圧ナトリウム灯であった時の年間電気使用量の差分から算出
※杉林のCO₂吸収量は、約8.8t/杉林1haとして算出(林野庁HPより)

センサー照明の導入

トンネルを通行する車両の存在をセンサーで検知し、照明の調光制御に連動させる技術



R 5 年度に中部縦貫道下山トンネルで初導入予定